

令和7年度 バウム 事業報告書

1 総括

令和2年度以降、利用者の自己肯定感を大切にしながら、福祉就労と一般就労準備支援に取り組むという基本方針で事業に取り組んできた。7年度もこの方針に変わりなく、取り組みを継続したが、昨年度以降採用の新規職員の育成が順調に進み、概ね安定した事業が行えたと感じている。利用者2名が一般就労を目指し、就労移行支援事業の利用を開始したほか、1名が8年度に利用を予定しており、一般就労に向けた通過施設としての機能が果たせたと共に、年間を通して安定して作業が行え、利用者工賃も前年度比を上回ったことで、福祉就労の充実という点でも概ね目標を達成できたと感じている。一方人材育成については、職員間のチームワークは良くとれており、連携協働が行われている一方で、現場での迅速かつ適切な判断力や内部牽制の不十分さが課題であった。新規採用職員を中心に使命感の醸成や知識の習得などに取り組んだ結果、徐々に改善は見られるようになったが、まだお互いに遠慮が見られ、事業に対する姿勢の厳しさという点では物足りなさが感じられる。次年度以降引き続き人材育成に力を入れ、利用者の多様なニーズに応えられるような事業所としての力をより一層強化していきたい。

2 事業概要

1) 施設名	バウム
2) 事業種別	就労継続支援B型
3) 所在地	東京都小平市学園西町三丁目24番18号
4) 経営主体	社会福祉法人 未来
5) 利用定員	20名
6) 利用現員	25名（令和8年3月31日現在）
7) 法人認可年月日	平成14年12月11日
8) 事業開始年月日	平成23年 4月 1日
9) 職員	管理者 1名（兼務）
	サービス管理責任者 1名（常勤）
	生活支援員 3名（常勤換算 1.9）
	職業指導員 2名（常勤換算 1.8）
	目標工賃達成指導員 1名（常勤）

3 基本理念

- 1) 一人ひとりの自己実現の支援
- 2) 互いの尊厳の尊重と信頼関係の構築
- 3) 安心と希望の持てる生活

4 基本方針

- 1) 福祉就労の充実を図り、作業を通して、生活能力、就業能力、社会性の向上等基本的事項の支援を行う。
- 2) 一般就労に必要な生活リズムの構築、生活能力、社会性、就業能力の向上等基本的事項の支援を行う。

5 利用者の受け入れ基準

- 1) 作業や訓練等に対して意欲的である。
- 2) 自力での通所ができる。(公共交通機関の利用が可能である。)
- 3) 反社会的、非社会的行動がない。
- 4) 衛生管理ができる。
- 5) 身辺自立している。

6 実施事業（活動内容）

1) 作業

- (1) ダイレクトメール作業
- (2) 清掃作業（公園清掃、アパート清掃）
- (3) 緑化推進事業（花壇保全作業）
- (3) 資源回収作業
- (4) その他受注作業

2) 行事

- 4月 コカ・コーラ工場見学
 10月 一泊旅行（山梨県）
 1月

7 日 課

- 8：45 体操・朝礼
 9：00 作業
 10：00 休憩
 10：05 作業
 11：00 休憩
 11：05 作業
 12：00 昼食・休憩
 13：00 作業
 14：00 休憩
 14：05 作業
 15：00 休憩
 15：05 作業
 16：00 休憩
 16：05 作業・清掃
 16：55 片づけ・終礼
 17：00 退勤

※ 毎週水曜日は16：00で終了（事業所別職員会議の為）

※ 毎月第2火曜日は12：00で終了（合同職員会議の為）

8 重点課題・目標

1) 活動

- (1) 利用者一人ひとりにあった福祉就労を通じての社会参加の促進

① 通所の安定化

面談等により、精神の安定を図り、安定した通所により生活リズムの構築を支援する。

【成果と課題】

日常の活動の中で、必要に応じて面談を行い、精神的に不安定になった際は話を聴く、助言を

行うなど個々の利用者の状況に合わせた対応を行い、通所率は約71%のとなった（令和6年度の73%から微減）。長期休みの利用者3名（入院2名、自宅療養1名）の内入院していた1名が他県の共同生活援助の利用のため5月に利用終了となった。また、自宅療養中の1名については、通所は1回のみであったが、1回訪問を行ったほか、月に数回メールや電話で相互に近況報告を行った。

② やりがいを感じる作業の実施

作業等を通じて集中力や持続力を身につけるとともに、自己肯定感を得られるように支援する。

（達成感、仲間意識や帰属意識の醸成、居場所としての役割、責任感の醸成など）

【成果と課題】

全般的には日々の作業の継続により集中力や持続力は身につけており、概ね安定して作業が行えているが、周期的に気持ちが不安定になることや、体調の悪化により、意欲や集中力が低下しがちな利用者も少なくない。その都度話を聞くことや、静養を促すこと等で対応し、個々の状況に応じて作業が継続できた。また、施設外実習には多くの利用者が意欲を示しており、計21名延べ90名の利用者が参加した。延べ人数は6年度の約1.5倍となった。作業開始や休憩の号令、朝礼等の進行から初め、6年度までに段階的に利用者の役割を増やしてきた。多くの利用者が積極的に取り組んでおり、人前で話す機会が自信や意欲向上につながっているほか、責任感や達成感の醸成にも有効と感じている。

③ 社会人、職業人としての成長の支援

作業や活動を通じて、社会性、協調性、ルールの順守等の必要性を伝えていく。

精神的不安定さや行動特性による大きな声や衝動的な行動、多動などは全般的に減少した状態を保っている（令和3年度以降年々減少し、4年度以降落ち着いた状況となっている）。お互いの特性理解や職員への相談により、利用者間の大きなトラブルはあまり見られていないが、相性、苦手意識など人間関係に関する相談は多く、調整が必要な場合が多い。また、作業の好悪や気分のムラ、体調不良などで、作業に対する責任感や集中力、持続力などが一時的に顕著に低下する利用者も複数おり、面談による注意喚起や休養など個々の状況に合わせた対応を行っている。気持ちの安定化のための支援と就業能力の向上に向けた支援のバランスが難しい場面も多かった。

④ 工賃

作業の安定供給、新規作業の開拓等により目標工賃を以下のように設定する。

	令和6年度 実績	令和7年度 目標	令和7年度 実績
月給	26,679 円	27,000 円	31,641 円
最高月給	49,740 円	35,000 円	42,350 円

【成果と課題】

6年度以降減少したダイレクトメールの作業受注量は回復していないが、他の室内軽作業を受注することで、受注作業収益は増加している。また、7年度から清掃作業の請負料金を改定したことで清掃作業収益が増収となったほか、緑化推進事業の作業量を増やし6年度比で作業収入が103万円増加し756万円となった。月額平均工賃も6年度の26,679円を大きく上回り31,641円となった。

(2) 利用者の健康促進・保持のための支援

健康診断、感染症予防、面談等による心の健康管理、日常の観察等による異変の早期発見の他、医療機関や家族との情報共有を図ることで、利用者一人ひとりの健康の促進、保持に努める。

【成果と課題】

消毒、検温、換気、マスクの着用等の基本的な感染予防策を実施し、事業所内での感染症の発生はなかった。各利用者の服薬状況や主治医の意見などについて本人や家庭に情報提供を求め、健康状態の把握に努めたほか、必要に応じて心身の状態など家庭に情報提供を行った。また、6月に利用者健康診断を実施し、20名の利用者が受診した。

(3) 一般就労へ向けた就労移行支援事業の利用支援

一般就労を希望する利用者に対し、就労移行支援事業所と連携のうえ、就業能力の評価を行うと共に、移行支援事業の体験実習などを通じて、就労移行支援事業所の利用に向けた支援を行う。

【成果と課題】

体験実習を経て2名の利用者がワークセンター夢の樹の就労移行支援事業の利用を開始し（7年11月1名、8年1月1名）、1名が8年度から利用することとなった。年度内に利用を開始した2名は3月末現在、順調に訓練継続中である。

2) 人材育成

(1) 職員の連携強化（情報共有・相互補完・内部牽制など）

(2) 中核職員の育成

- ①利用者支援スキルの向上
- ②リーダー職員の育成による職員指導（OJT）の強化
- ③事業管理に必要な事務の知識向上

【成果と課題】

- (1) 通常の業務においては職員の情報共有は概ねスムーズに行われており、連携協働体制はよく取れていた。内部牽制や問題が生じたときの対応力の弱さ（正確な報告、適切な判断、迅速な対応など）は、まだ十分とはいえないが、現場リーダーの育成が進むにつれ、改善傾向にある。
- (2) 6年度採用の2名の職員が他事業所での実地研修を行ったほか、学習会に参加し、法人の事業内容や事業管理に関する知識の習得に努めた。日常の業務を通じて管理業務の知識や手法、組織管理の考え方などの習得が進んでいる。7年度採用職員1名は年度途中で退職となり、派遣職員の採用で一時的に補充を行った。

3) 経営管理

(1) 訓練等給付費の安定確保

- ①1日平均利用者20人を目標とする。
（令和6年度実績—平均利用者20.1人。26人在籍、通所率73.0%）
- ②基本報酬単価2万5千円以上を維持。
- ③利用者確保のため、他事業所、就労支援センター及び特別支援学校などからの実習を積極的に受け入れ、利用につながるよう働きかけを行う。
- ④就労移行の期限超過の利用者の受け入れを推進し、就労へも再チャレンジを支援すると共に、利用者の確保を図る。

【成果と課題】

- ① 1日平均利用者数は19.49人となり、6年度の20.13人から同時期を0.64人減少した。実績減と目標工賃達成加算の対象から外れたことで、給付費収入は約4,400万円となり6年度の約4,650万円から約250万円減額となった。

- ② 8年度の報酬ランクは3万円以上となったが、報酬改定により給付費の単位数は現状維持となった。
- ③ <令和7年度実績>
 見学者 12名（支援機関紹介3名、特別支援学校進路相談7名、
 本人・家族相談2名）
 内実習者 7名（支援機関紹介1名、特別支援学校進路学習6名）
 内利用契約者 4名（支援機関紹介1名、特別支援学校進路学習3名）
- ④ 就労移行支援事業の期限超過者からの利用相談はなかった。

(2) コスト削減

節電節水に取り組む他、無駄な支出を抑え、コスト削減を図る。

【成果と課題】

使用していない場所の電気やエアコンの消し忘れ等は徹底に至っていない。また、備品購入伺い書を使用することで無駄な支出は抑えられた。

(3) 計画的な予算執行

月次試算分析を丁寧に行い経営状態の把握に努める。

【成果と課題】

月次試算の分析を丁寧に実施し、計画的に予算の執行ができた。

(4) 経営的視点の共有

毎月の職員会議で月次試算報告を行うことで、事業所の財務状況について職員の理解を深め、経営的視点の共有を図る。

【成果と課題】

計画通り報告を行い、大まかな経営状態は全体的に把握できている。

9 事故等報告

- 1) 12月 退所前の17時、興奮時に服用するよう家庭から預かっていた頓服薬（リスパダール）を職員が残数確認の為、机の上に置いたまま場所を離れ、3分後に戻った際に薬が2錠減っていることに気が付いた。この間当該利用者が机に傍におり、自分の薬であったことから服用してしまった可能性が高いと考えられた。また本人に確認したところ「飲んだ」と話していた。通常1錠服用のところを2錠服用していたこともあり、退所を取りやめ18時迄事業所で待機とし、経過観察を行った。18時に家庭と連絡が付き、状況を報告。体調に異常が認められていないことから、帰宅させるよう家族より指示があり、18時5分に退所。無事帰宅。その後体調に異常なく、翌日も通所した。当日の職員ミーティングで下の事項を確認した。
- ・原因一薬を放置したこと。危機管理意識の欠如。
 - ・再発防止策一薬の残数確認は利用者の退所後行うこと。また薬を保管場所から出さずに複数の職員で確認を行うこと。

10 開所状況

- 1) 開所期間 自 令和7年4月1日 至 令和8年3月31日
- 2) 開所日数 (1) 週開所日数 5日間
 (2) 開所時間 午前8時45分～午後5時
 (3) 年間延開所日数 242日間（前年度 243日）

(4) 平均活動時間 8時間15分

1.1 利用状況

1) 利用者延人数	4,716人(前年度4,892人)
2) 1日平均利用人数	19.5人(前年度20.1人)
3) 施設外就労等実人数	21人(前年度20人)
4) 施設外就労等延人数	90人(前年度62人)
5) 体験実習受入実人数	7人(前年度4人)
6) 体験実習受入延人数	33人(前年度15人)
7) 1日平均実習受入人数	0.14人(前年度0.06人)

1.2 利用者状況(令和8年3月31日現在)

1) 年齢

20歳未満	2名
20歳以上30歳未満	5名
30歳以上40歳未満	6名
40歳以上50歳未満	6名
50歳以上60歳未満	5名
60歳以上	1名

2) 障害の状況

手帳不所持	1名
療育手帳3度	6名
療育手帳4度	7名(内精神手帳所持1名)
身体障害者手帳1級	1名(内精神手帳所持1名)
身体障害者手帳3級	2名
精神保健手帳2級	9名(内療育手帳所持1名、身障手帳所持1名、)
精神保健手帳3級	1名

1.3 環境の整備

定期的に室内清掃を実施し、年間を通して概ね清潔な環境を保つことができた。但し、トイレの清掃が徹底されていないことが数回見られた。

1.4 防災

自衛消防訓練を年2回実施した。また、3月に当法人と小平手をつなぐ親の会との共催の防災訓練に参加した。